

大会開催基本計画について

大会開催基本計画の概要

- 大会開催準備の枠組を提供する基本的な計画
- 2月27日にIOC、IPCに提出の上、公表
- 本大会開催基本計画を出発点として、具体的実施内容について今後検討

記載内容

1章 大会ビジョン

◆大会ビジョン（オリンピック・パラリンピック共通）

スポーツには世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、
「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、
「そして、未来につなげよう(未来への継承)」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

◆パラリンピックへの取組姿勢

同一都市として初めて2回目のパラリンピック大会の開催であり、パラリンピックムーブメントの発展に貢献し、誰もが身近な地域で生涯スポーツを楽しめる活力のある共生社会の実現に貢献

＜パラリンピックムーブメントの発展に向けた戦略的な取組例＞

- ・ パラリンピックを意識した組織運営
- ・ パラリンピック競技の認知度向上
- ・ 大会に向けた盛り上げの醸成
- ・ パラリンピックのブランド価値向上

2章 大会のクライアント

◆クライアントを8つのカテゴリーに分類

①選手・NOC/NPC ②IF ③マーケティングパートナー ④オリンピック・パラリンピックファミリー/要人 ⑤オリンピック放送機構(OBS)/ライツホルダー(放送権者) ⑥プレス ⑦観客 ⑧スタッフ

◆それぞれのニーズ・要望を十分に把握し、日本人のおもてなしの心を大切にして、各クライアントに焦点をあてた計画と運営を確実に実施

3章 会場・インフラ

◆東京2020大会として最高の舞台を用意するため、アスリートのベストパフォーマンス、アクセシビリティ等に配慮し、大会後の有効活用を見据えて整備

◆競技会場の具体的な配置等については、現在、アジェンダ2020等を踏まえ、レガシー、都民・国民生活への影響、コスト増への対応等の観点からレビュー実施中

4章 大会を支える機能(ファンクショナルエリア)

◆競技、放送サービス、エネルギー、セキュリティ、ドーピングコントロールといった大会運営に必要な52のファンクショナルエリア(FA)について、それぞれの機能を明確化

◆大会ビジョン等を踏まえながら、安全・安心で確実な大会運営と、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境づくりを目指すとともに、日本や東京ならではのサービス提供の観点も重視し、各FAのミッション、主要目標、主要業務・役割を記載

取組の例

都市活動・ライブサイト

○様々なイベント等を通して、多様な都市活動を提供することにより、コミュニティ全体に大会の雰囲気を楽しむ機会を創出
(オリンピック・パラリンピックの生中継を観戦できる場所(ライブサイト)の提供、都市の装飾及び賑わいの提供(ファントレイル)など)

パラリンピックインテグレーション

○障がい者を含む、パラリンピック大会の全てのクライアントに対し、思い出に残る素晴らしい体験を提供できるよう大会準備全般に関与
(パラリンピック競技大会の計画・管理・実行、アクセシビリティ・ガイドラインの策定、オリンピックからの円滑な移行など)

セキュリティ

○オールジャパン体制により安全及びセキュリティを確保し、全ての関係者が実感できる安心を提供
(テロ・大規模災害等緊急事態・サイバー空間における脅威への対処、民間警備員及びセキュリティボランティアの準備など)

輸 送

○迅速、安全、円滑な移動を可能とし、クライアントの多様なニーズを踏まえたサービスを提供
(オリンピック・パラリンピック道路ネットワークの設定、公共交通網の活用、都市活動等への影響の最小化、アクセシビリティの向上など)

5章 推進体制

◆ ロードマップ

- 大会開催準備から終了・解散までを5つのフェーズに分類し、大会成功に向けた道標として活用

- ① 基礎フェーズ : 開催都市決定後、大会開催準備を始める基礎段階 (2013~15)
- ② 計画立案フェーズ : 大会運営上の具体的準備に着手するとともにリオ大会を踏まえ計画を改善する段階 (2015~19)
- ③ 実践準備フェーズ : 計画立案から実行へと移行する段階 (2019~20)
- ④ 大会運営フェーズ : オリンピック・パラリンピック大会の運営段階 (2020)
- ⑤ 解散・レガシーフェーズ : 法人を清算しレガシーを継承する段階 (2020~21)

◆ 関係者との連携・組織内の連携

- 東京2020組織委員会の組織構造、関係者との連携・役割分担など、推進体制を早期に明確化し、組織内外の一体的な取組を推進

6章 アクション&レガシー

◆ アクション&レガシープラン

- 単に2020年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020年以降も含め、日本・世界全体に対し、様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会とする。
- 「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱ごとに、組織委員会、政府、東京都、JOC、JPC、経済団体等のステークホルダーが一丸となって、計画当初の段階から包括的に取組(アクション)を推進
- 2016年に「アクション&レガシープラン」をとりまとめ
 - 多様なステークホルダーの責任と役割を明確化
 - 2016年から2020年までの具体的なアクションを記載
 - 2020年以降につながるレガシーを概括

◆ レガシーの方向性(例示)

1 スポーツ・健康

- 健康志向の高まりや地域スポーツの活性化が及ぼす好影響
- パラリンピックを契機とする人々の意識改革・共生社会の実現

2 街づくり・持続可能性

- 大会関連施設の有効活用
- 誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進

3 文化・教育

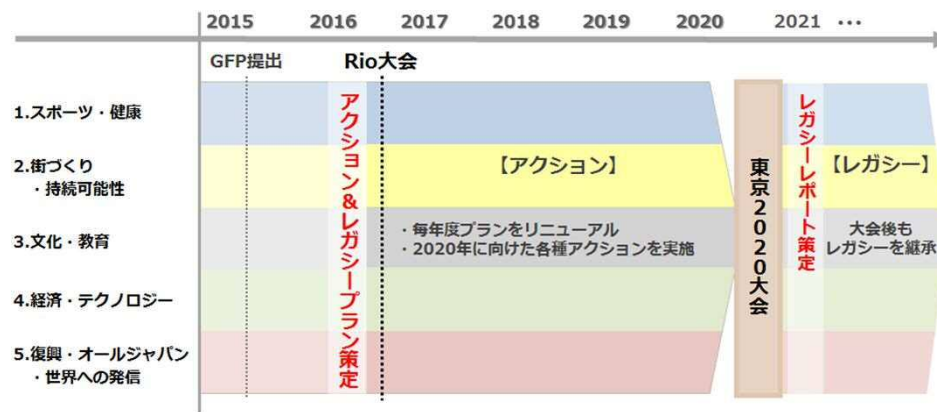
- 文化プログラム等を通じた日本や世界の文化の発信と継承
- 教育プログラム等を通じたオリンピック・パラリンピックの精神の普及と継承

4 経済・テクノロジー

- 大会開催を通じた日本経済の再生と本格的成長軌道への回復への寄与
- 大会をショーケースとすることによる日本発の科学技術イノベーションの発信

5 復興・オールジャパン・世界への発信

- 東日本大震災の被災地への支援や復興状況の世界への発信
- 大会を契機とする日本各地の地域活性化や観光振興



7章 エンゲージメント

◆ 達成目標

- 国内外の多くの人々が参加できる多種多様なプログラムを実施して、共に大会を作り上げる応援者を最大化し、大会ビジョン達成に向けた意識を広く醸成

◆ エンゲージメント戦略の策定

- 東北復興の際に発揮された思いやり、助け合いという“絆”意識も取り込みながら、独自のエンゲージメント戦略を策定